

複雑なlineの定規

一郎丸ゆう子



目次

複雑な line の定規	1
味のないガム	3
ネズミの城	4
震える銃口	7
優しい瞳	8
凍桜（しみざくら）	9
美酒佳肴	10
パズル	11
空のコップと満杯のコップ	12
コスモスが見た光景	13
逃げろ逃げろ	14
太陽と満月	15
地球の渡り方	16
この世視察報告	18
1 の心	19
盾と矛	20

複雑な line の定規

世の中という怪物が作った複雑な line の定規に心あてはめたら

心臓が挟まれて激しく痛み出した

笑っているのは悲しみがあふれて止まらないから

涙も出ないほど心枯れ果てて

笑うしか残されていない

早すぎる地球の自転に目が回りそうな日々

足元から徐々に凍りついていく

心だけが限界を待ちながら必死でそれを堰き止めている

それでも月あかりがほんのりと暖かい夜

前頭葉にあふれ出す疑問符を虹に並べたら

優しいメロディになって雪を融かすだろうか

きっと春の来ない国でも

ありえない季節に開花した桜は

見たこともない色で輝くはず

味のないガム

味のないガムを噛み続けているような毎日

このガムにもう一度味が付く日はくるのだろうか

パソコンの液晶画面の中に

決して来ないとわかっている未来を探してみる

味のなくなったガムを捨てて新しいガムを噛むことも出来るはずなのに出来ない

なぜだろう

だって味のないガムは私に必要なビタミンを補給してくれる

新しいガムは美味しそうに見えるけど

噛んでみたらとてつもなく苦いかもしれない

美味しそうなガムを口に入れる勇気もなく

永遠に答えが出ない問いが季節の狭間で揺れている

風が枯れた木の葉を揺らしている

ネズミの城

砂浜でネズミが

小さな石を一つひとつ拾って重ねてた

100年後には城になる

夢見てねずみは積んでいた

結構積んで小さな山が出来た時

風が吹いて石が全部崩れちゃった

ごめんねごめんねねずみさん

代わりに砂をあげますね

風は砂粒くれたけど

砂は風にさらわれた

それでももう一度石を集め

ネズミは頑張って積みました

また少し大きくなった時

大きな波が来て

石は全部沖に流されていきました

ネズミは悲しくて泣きました

ごめんねごめんねねずみさん

かわりに水をあげますね

水では積むのは無理でした

でももう一度石を集めて積みはじめ

かなり大きくなった時

少し休んで寝ていたら

全部誰かに持っていかれてた

ネズミはもう泣けなくなって

何日もぼーっとしてた

周りにはもう集める石もなくなって

砂を集めて積もうとしても

すぐに風と波にさらわれて崩れてしまう

水平線を眺めると

うっすら夢の城が浮かんでくる

でも手を伸ばすと消えてしまう

見えなくなれば忘れられるのに

いつも水平線に浮かんでくる幻の城

今日もひがな 1 日

ネズミは水平線を眺めてる

震える銃口

私の心臓の延長線上に

暗闇で誰かが銃口を向けていた

恐怖に支配された目で見つめると

その手も震えていた

その手を振り払うことも

抱きしめることもできずにその場から逃げ出した

何も考えずに走り続け

走って走って走って力尽きた時

暗い宙にうっすらと見えた光から

甘酸っぱい雫が一滴落ちて

頬を濡らした

優しい瞳

暗闇で耳澄ませば風の音に震える

月明りさえも雲に奪われた時代の墮天使たち

悲しみに心溶ける前に

優しい瞳に撃たれて眠りたい

凍桜（しみざくら）

雪解けを待たずに咲いた桜は

春を忘れた国で

人の目にも触れず凍り付き

散りもせず

色褪せることもなく

実もつけず

舞いもせず

誰を待つのか

美酒佳肴

全てを受け入れろ

万人を愛せ

聖者が叫ぶ

ただ、宇宙がすべてを包むとしても

やっぱりある

譲れないもの許せないもの

ああ、神よ

あの嘆きも その悲しみも

その意の下にあるのでしょうか

あの少女の悲鳴も宇宙の理だと

ああ、それならば

この世の全ての命よ

美酒佳肴の香気に跪け

パズル

優しく包みたかったのに

言葉の切れ先は思ったよりずっと鋭くて

少女の心を強くえぐる

言葉はいつも足りないピースと透明なプレートで作り続けるパズル

いつの日かこのパズルに君を埋め込めるだろうか

空のコップと満杯のコップ

空のコップと満杯のコップが並んでた

遠くから見ると同じに見える

どっちもキラキラ光ってて

同じ景色が映ってるけど映り方がちょっと違う

近寄ってみた

空のコップを見たら何かを注ぎたくなった

満杯のコップは

触ると倒れそうで持ち上げられない

いつか満杯のコップを持ち上げられる私になりたいと願いながら

空のコップに水を半分注いで飲みほした

満杯のコップの水が

少し揺れた

コスモスが見た光景

ミツバチ、ミツバチ、小さいけれど

ミツバチ、ミツバチ、よく動く

誰かが太る蜜の為

ミツバチ、ミツバチ、小さいけれど

お尻に小さい針を持つ

他の誰かをを守るため

ミツバチ、ミツバチ、小さいけれど

強い敵にも向かってく

蜜をむさぼる者のため

ミツバチ、ミツバチ、小さいけれど

大きな敵に針を刺し

敵を倒して息絶える

ミツバチ、ミツバチ、今日も来た

蜜を蒐めに今日も来た

逃げろ逃げろ

逃げろ逃げろ

とにかく逃げろ

どんなに強い敵だって捕まらなければ殺（や）られない

弱肉強食なんてうそ

鋭い牙持つライオンも

獲物獲れなきゃ飢えて死ぬ

弱肉類のしまうまも

逃げて逃げて逃げ延びて

最後に残れば宇宙の勝者

太陽と満月

頬を温める太陽も

闇を照らす満月も

いつも君にやさしくはなかったね

強すぎる陽の光は君の肌を燃やし

月は雲に隠されて真っ暗闇

でも太陽は花咲かせ

桃の果肉が飢え満たし

月を隠した雲は雨降らせ喉潤わす泉となる

地球の渡り方

人の気持ち分かる人になれて教わったけど

分かるわけないよね他人の気持ち

だって私の気持ち分かってもらったことは一度もないし

自分のことさえ見えなくなる

掴めない霧に覆われた世界

私は私で

あなたは世界にただ一人

占いは当たるも八卦

当たらなければ自己責任

以心伝心勘違い

阿吽の呼吸は痩せ我慢

人生は綱渡り

下は地獄か天国か

高い場所で細いロープにしがみついたら

風も吹くし、雨にも当たる

空飛ぶ鳥も体当たりしてくる

進みたくても進めない

みんな人生ハードモード

でも大丈夫

絶対に落ちない場所きっとあるから探してみて

私もちょっと手伝うよ

たしたことは出来ないけどね

もうちょっと地球にいたくちゃいけないみたいだし

この世視察報告

黒い人が言いました

この世は恐ろしいところでした

人々は騙し合い、奪い合い、殺し合い、破壊します

白い人が言いました

この世は素晴らしいところでした

人々は労り合い、分け合い、助け合い、創造します

2人は互いの顔をじっと見つめあいました

そして混ざりあい

やがて光と陰になりました。

1の心

1だと思っていた1だった1

0だと思っていたけど1だった1

2だと思っていたのに1だった1

みんな同じ1だけど

手にした時の感情はまったく違う

それでも

0より1を

1より2

2より3を

盾と矛

子供生め

仕事行け

ごみ分けろ

権利と名付けた無茶ぶりと

本当の意味隠した横文字を

並べて叫んで撒き散らされて

振り回され、かき乱されてく私という宇宙

泣き笑い

鎌倉幕府の誕生日いつのまにか変わったって

冥王星は太陽系じゃないんだって

世の中変わったからお前も変われ？

あたし切り替えボタンあったっけ

zoom 繋いで会議したら

長い夜は昼に変わりますか

5G で世界とつながれば1日は48時間になるんですか

自動運転で海に向かったら太陽は東に沈みますか

夢現（うつつ）

AI が仕事奪うって

仕事したくないから作ったんじゃないの？

欲しい物作りだして

作った物に壊されると

怯えて震えて大切なものぶち壊して

血の涙流す歴史また繰り返す

盾と矛

使い方間違えてるから

命守れない

胸に刺さらない

嘘誠（うそまこと）

複雑なlineの定規

著 一郎丸ゆう子

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
